海外安全対策情報（2025年1月～3月：コロンビア）

1 一般犯罪・凶悪犯罪の傾向

殺人事件は前年同期比約1%、恐喝事件は約13%増加した一方で、強盗や窃盗は約12%減少した。しかし、在留邦人の利用も予想されるボゴタ市内北部のレストランやカフェには、機関銃などを携行した犯人による大規模な強盗事件も散発している。さらに、SNSを通じて知り合いになり、飲食店や自宅等で飲食をする機会に乗じて、飲食物に睡眠薬を混入させて意識を失わせる睡眠薬強盗被害や、警察官になりすまして職務質問を装い金品をだまし取るような手口の犯罪も引き続き発生している。

さらにメデジン市、カルタヘナ市等では、前述のとおりSNSや出会い系アプリを通じて知り合った異性から、気づかぬうちに睡眠薬で眠らされ金品を盗まれる外国人や、違法薬物を過剰摂取して死亡する外国人が増加しているため、行動に十分に注意する必要がある。

このような被害に遭わないために、人気のない道路は日中でも避ける、身の回りの物から目を離さない、怪しい人物に狙われていないか注意する、乗車中に信号等で一時停止した場合でも不審者が付近にいないか確認する、むやみに車の窓を開けない（物乞い等に施しを与える場合にも直接手渡さない）、飲食店で出会った人物やアプリで知り合った人物を安易に信用しない等、常に警戒を怠らない心構えが必要である。万が一、強盗やひったくりに遭った場合は、生命を第一に考え絶対に抵抗せず、たとえ犯人が弱そうに見えてもけん銃、刃物等を所持している可能性が高いため盗まれた物を取り返そうとしてはいけない。

2 テロ・爆弾事件発生状況・関連報道

テロは前年同期比約143%、誘拐は25%の大幅増加となっている。これは、今年1月にノルテデサントアンデル県カタトゥンボ地方において、元FARC分派とELNIによる武力衝突が激化したためである。また同県ククタ市等においてコロンビアとベネズエラの国境を陸路で通過することは、ベネズエラ側で違法武装組織又はベネズエラ政府に拘束される可能性があるため控えるべきである。

また爆破テロの主な対象は軍・警察等の治安機関であるが、付近に近づくと巻き添いになる可能性が十分あることから、できる限り治安機関施設に近づかない、不審物を発見した際は触ったり蹴飛ばしたりせず、警察に通報することが肝要である。

2025年

- ・ 1月9日 バジェデルカウカ県フロリダ市の元市長候補で、同市の幹部が仕事帰りに自家用車を運転中、バイクに乗った2人組の狙撃犯に前腕と胸を撃たれ重傷。

- ・ 1月15日 カウカ県スアレス市においてドローンが爆発物を警察署に投下し3名が負傷。
- ・ 1月19日 アンティオキア県ブリティカ市で鉱山プロジェクトを運営する多国籍企業に対し、違法武装勢力が飛しょう体を発射し、同社の変電所を破壊。
- ・ 1月20日 ラ・グアヒラ県ウリビア市で、石炭会社の線路が爆破される物的被害が発生。
- ・ 2月15日 ナリニョ県パスト市で、CAI（交番）に設置されていた不審物が突然爆発し1名が負傷。
- ・ 3月 ボゴタ市サンベルナルド地区において、麻薬犯罪組織による抗争事件が3月中に4回連続で発生。

3 邦人被害状況

2月下旬の午後8時ころ、キンディオ県アルメニア市において旅行者が1人で歩行中、男2名に壁際に追い詰められ頭突きされ、無理矢理ズボンのポケットに手を突っ込まれた。その際、財布、携帯電話など全ての所持品を盗まれた。なお、頭突きされた際に鼻血が出る軽傷を負った。